

機関番号	研究種目番号	審査区分番号	細目番号	分割番号	整理番号
12601	13	-	2801		0001

平成21年度 (2009年度) 若手研究 (B) 研究計画調書

平成 20 年10月30日
2版

新規

研究種目	若手研究(B)						
分野	人文学						
分科	哲学						
細目	哲学・倫理学						
細目表 キーワード	西洋倫理学						
細目表以外の キーワード	功利主義						
研究代表者 氏名	(フリガナ)	コダマ サトシ					
	(漢字等)	児玉 聡					
年齢 (H21.4.1現在)	35 歳 (S . 49年02月生まれ)						
所属研究機関	東京大学						
部局	医学(系)研究科(研究院)						
職	講師						
学位	博士(文学)						
現在の専門	倫理学、生命・医療倫理学					ポート 15%	
研究課題名	「功利主義 v s 直観主義」論争の変遷と現代倫理学における直観の方法論的意義の解明						
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
	平成21年度	335	0	180	100	25	30
	平成22年度	735	0	180	500	25	30
	平成23年度	335	0	180	100	25	30
平成24年度	0	0	0	0	0	0	
総計	1,405	0	540	700	75	90	
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						

研究目的

本欄には、研究の全体構想及びその中で本研究の具体的な目的について、冒頭にその要旨を記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費補助金(基盤研究等)における審査及び評価に関する規程」(公募要領 52～99 頁参照)を参考にしてください。)

研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)

研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

本研究の目的は、西洋倫理思想における功利主義の位置づけおよびその現代的意義を明らかにするという全体構想の一部として、功利主義が常にその論敵としてきた直観主義に焦点を合わせ、思想史における「功利主義 vs 直観主義」論争の変遷と現代の倫理学における直観の方法論的意義を解明することである。

研究の背景

申請者はこれまで、功利主義を思想史的に研究するとともに、その現代的意義について、特に生命倫理を中心に検討してきた。今日、功利主義は義務論と対比されて論じられる傾向にある。だが、その場合、行為の結果よりも動機や意図を重視するカント倫理学との対比が強調され、功利主義が長年にわたって論敵にしてきた直観主義との対比が見えにくくなってしまふ。現代にいたるまでの功利主義の思想史的展開を明らかにするには、功利主義と直観主義という対立軸を中心とし、以下のように論点を整理する必要がある。

功利主義は、合理的な道徳理論であることを標榜し、直観主義を非合理的な立場として批判してきた。

たとえば功利主義を最初に定式化したベンタムは、「直観主義」という言葉こそ用いなかったが、シャフツベリやハチソンやパトラー、クラーク、プライス等のそれまでの英国の主要なモラリストたちの道徳理論を、当人の是認と否認の感情を究極の基準とする「共感と反感の原理」に他ならないとして、すべて切って捨てた(Bentham 1789)。ベンタムにとっては、行為の帰結の評価によって判断する功利主義こそが、唯一客観的で一貫して採用できる法と道徳の原理であった。また、ミルもその自伝において、リードやヒューエルやハミルトンを代表とする当時の「直観派」との自覚的な対決を通して、経験的・観念連合的な倫理学と哲学を築いていったと論じている(Mill 1873)。さらに、シジウィックも、その主著『倫理学の諸方法』において、功利主義がその基礎において「哲学的直観」を有することを認めながらも、道徳理論としての直観主義を十分に検討したうえで退けている(Sidgwick 1907; 奥野 1999)。

その後も、古典的な直観主義はムーア、プリチャード、ロスらによって 20 世紀初頭に論じられた。ムーアは、正しい行為は善を最大化する行為であるとする功利主義の基本的枠組みは維持しながらも、善は定義できず直観によって知られるのみであるとした(Moore 1903)。また、ロスは、一見自明な道徳義務は個別のケースから帰納的に知られるとし、義務の衝突が起きた場合にどの義務が優先するかは、個々の場面で直観的に知られるとした(Ross 1930)。このような直観主義の議論は、メタ倫理の領域ではマクロスキー(McCloskey 1969)などによって引き続き論じられたものの、論理実証主義によって規範的学問全体が停滞したこともあり、いったんは下火になった。

倫理学において直観主義が再び注目を浴びたのは、ロールズの『正義論』によってである。ロールズは、複数の道徳原則間の調停を直観を用いて行うという従来の直観主義を退けながらも、言語学におけるチョムスキーの言語直観の議論も参考にしつつ、正義に関するわれわれの直観(熟慮判断)と、正義原理を生み出す原初状態のあり方との間で往復作業が行われなければならないという反照的均衡を唱え、大きな影響力のある倫理学方法論を生み出した(Rawls 1971)。だが、反照的均衡という方法論については、たとえばヘアやシンガーといった功利主義者たちが、ロールズを直観主義者とみなし、道徳的正当化において直観の役割を重視しすぎだと批判している(Hare 1973; Singer 1974)。このように概観するなら、道徳の本質や倫理学方法論をめぐる功利主義と直観主義の争いは、形を変えながらも現代にいたるまで続いていることは明らかである。

研究機関名

東京大学

研究代表者氏名

児玉 聡

研究目的(つづき)

現代の生命倫理やその他の関連領域においても、功利主義と直観主義の対立が先鋭化している。申請者がこれまで研究してきた生命倫理学では、シンガーやハリスやレイチェルズなど(広い意味での)功利主義者が活躍する一方で、彼らの議論に対する直観主義的な批判が根強く存在している(児玉 2006, 2007a)。たとえば、限られた医療資源の配分において、単純に最大多数の患者を助けるという功利主義的な考えは直観に反するとして、コストがいくらかかっても死に瀕している特定の個人を優先的に助けるべきだとする「救済原則」が提唱されている。また、臓器移植に関しても、「デッド・ドナー・ルール」(バイタルな臓器は死者からしか取ってはならない)や、死後の臓器提供の義務化といった論点に関して、直観の位置づけが問われている(児玉 2007b, 2008)。

さらに近年では、脳科学や認知心理学や行動経済学などの領域において、われわれの道徳的直観や道徳判断における理性と感情の役割に関する実証研究が進展している。シンガーはすでにこれらの実証的研究や進化論が道徳理論に与える役割についてある程度論じているが(Singer 2005)、まだこうした実証研究や理論がわれわれの道徳実践や道徳理論に対して持つ含意は十分に検討されていない。

研究の目的

このような現状認識を踏まえ、本研究では、「功利主義 vs 直観主義」という対立軸を中心に据え、ベンタム以前から現代にいたるまでの二つの倫理理論の論争を俯瞰的に再検討し、論点整理を行ったうえで今後の展望を示すことを目的とする。具体的には、第一に、これまでの功利主義関連の思想史研究を踏まえ、「直観」をキーワードとして通史的な検討を行う。それによって抽出された論点を踏まえ、第二に、生命倫理学やその他の関連領域における功利主義と直観主義の理論的・実践的争点を明確にし、今後の課題と展望を示す。

本研究の特色と予想される結果

最初に述べたように、功利主義は今日、義務論と対比されることが多い。義務論と直観主義はその理論面や実践的含意において重なる部分も多いのだが、本研究では特に直観主義を功利主義の論敵として対比的に論じることによって、功利主義陣営と反功利主義陣営の論争の全体像を通史的に明らかにすることができるだろう。功利主義と直観主義の対立は英米の倫理学でも一つの争点になっているものの、このような通史的な研究は国内外でまだ行われていない。そのため、「直観」に焦点を絞って両者の対立を描き出すことで、倫理学における重要な対立軸を明確化する有益な研究になるだろう。また、本研究は思想史的な意義を持つだけにとどまらず、生命倫理学やその他の現代倫理学における論争の対立軸を明らかにし、今後の展望を開くのにも役立つだろう。

Reference

- Bentham, Jeremy. 1789. *An Introduction to the Principles of Morals and Legislation*.
- Hare, R.M. 1973. 'Rawls's Theory of Justice,' *Philosophical Quarterly*. 23: 144-155.
- 児玉聡. 2008. 「近年の米国における死の定義をめぐる論争」、『生命倫理』、18(1):39-46。
- 児玉聡. 2007a. 「生命倫理学における功利主義と直観主義の争い」、『創文』、創文社、494:28-31。
- 児玉聡. 2007b. 「デッド・ドナー・ルールの倫理的検討」、『生命倫理』、17(1):183-189。
- 児玉聡. 2006. 「功利主義と臓器移植」(伊勢田・榎編『生命倫理学と功利主義』ナカニシヤ出版)。
- McCloskey, H.J. 1969. *Meta-Ethics and Normative Ethics*. Martinus Nijhoff: The Hague.
- Mill, J.S. 1873. *Autobiography*.
- Moore, G.E. 1901. *Principia Ethica*.
- 奥野満里子. 1999. 『シジウィックと現代功利主義』、勁草書房。
- Rawls, John. 1971. *A Theory of Justice*. Harvard UP.
- Ross, W.D. 1930. *Right and the Good*. Oxford: Clarendon Press.
- Sidgwick, Henry. 1907. *The Methods of Ethics* 7th ed.
- Singer, Peter. 1974. 'Sidgwick and Reflective Equilibrium,' *The Monist* 58:490-517.
- Singer, Peter. 2005. 'Ethics and Intuitions,' *The Journal of Ethics* 9:331-352.

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその要旨を記述した上で、平成21年度の計画と平成22年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の点についても、焦点を絞り、具体的なかつ明確に記述してください。

本研究を遂行する上での具体的な工夫（効果的に研究を進める上でのアイデア、効率的に研究を進めるための研究協力者からの支援等）

研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者及び必要に応じて研究協力者（海外共同研究者、科学研究費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可））の具体的な役割（図表を用いる等）

研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、または職務ではないが別に行う研究がある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違点

本研究は、西洋倫理思想史における「功利主義 vs 直観主義」論争の変遷と現代の倫理学における直観の方法論的意義を解明することを目的とする。

この目的を達成するために、具体的には、第一に、思想史的研究に関して、20世紀以前、20世紀前半、20世紀後半以降の三期に分け、これまでの功利主義関連の先行研究を踏まえ、直観をキーワードにして研究を行うことにより、「功利主義 vs 直観主義」という論争の構図を明らかにする。

それによって抽出された論点を踏まえ、第二に、生命倫理学やその他の関連領域における功利主義と直観主義の理論的・実践的争点を明確にし、今後の課題と展望を示す()。

平成21年度

研究全体(~)に関する文献検索・収集を開始するとともに、主に について研究を進める。

20世紀以前の功利主義と直観主義の展開と論争の研究

ベントム、ミル、シジウィックと、その論敵を対象として文献研究を行う。Past Masters等のデータベースが利用可能な文献(たとえばベントム、ミル、シジウィックの主要著作や、Selby Bigge 版の *British Moralists* 所収のハチソンやブライス、クラーク、バトラー等の著作)に関しては、「直観」や「直覚」等のキーワードで検索を行い、関連する議論の見落としがないように努める。また、このテーマに関する国内外の先行研究や思想史の文献(Sidgwick 1998; Schneewind 1997; Rawls 2000 等)を網羅的に収集し、対立の図式化と論点整理を行う。

なお、以上の研究については、申請者が中心となって開催しているベントム研究会で定期的に報告を行い、研究の内容や方向性について十分にディスカッションを行う予定である。同研究会は、ベントムに限らず、近代の西洋思想史の若手研究者が集って月一回ペースで行っているものである。また、22年度に、ロンドン大学UCLにあるBentham Projectを短期間訪れ、本研究に関する資料調査と意見交換を行う。UCLは、ベントムを中心とする功利主義研究が盛んであり、申請者も以前、同大学で研究を行ったことがあるため、本研究への協力を依頼できる状況にある。

平成22年度以降

前年度の研究成果に基づき、以下の研究(~)について、順次進めていく。

20世紀前半の功利主義と直観主義の展開と論争の研究

プリチャード(Prichard 1949)、ロス(Ross 1930)等による直観主義理論を、二次文献も合わせて精読し、その論点と功利主義批判の要点をまとめる。

その一方で、アームソン以降の行為功利主義と規則功利主義の発展において、どのように直観主義が影響しているか、また直観主義に対するどのような批判があるかを、ベイルズ(Bayles 1980)による編著の他、主要文献に当たって考察する。JSTOR等の雑誌論文データベースによる文献検索も行って、網羅的な文献リストを作成する。

研究機関名

東京大学

研究代表者氏名

児玉 聡

研究計画・方法 (つづき)

20 世紀後半の功利主義と直観主義の展開と論争の研究

ロールズの『正義論』における反照的均衡をめぐる論争を中心に、国内外の先行研究を参考にしながら、直観に関する議論を整理する。とくにヘアやシンガーといった功利主義者による批判の妥当性を検討する。

また、スマート、ヘア、シンガー、ブランド、パーフィット (Smart 1973; Hare 1986; Singer 1993; Brandt 1979; Parfit 1984) などの功利主義(的)思想家の主要著作において、直観がどのように扱われているかに焦点を絞って整理する。

さらに、Jamieson (1991)、Hintikka (1999) など、直観の方法論上の役割について自覚的に論じている論文や、Dancy (1991) などメタ倫理的な文脈での議論も見られるので、文献データベースを用いて主要な国内外の文献を網羅するように努める。

今日の生命倫理学における功利主義と直観主義の対立の研究、および脳科学などにおける道徳直観に関する研究とその意義の研究

上述の研究によって明らかになった功利主義と直観主義の間の論争点を念頭にして、医療資源の配分や臓器移植といったテーマにおける論争を整理し、問題解決の糸口を探し出す。それと同時に、脳科学や認知心理学や行動経済学における直観に関する研究をサーベイして、それがこれまでの直観をめぐる議論に対して持つ含意ないしインパクトを評価する。

なお、生命倫理学および脳科学等における直観の意義に関する研究については、申請者が所属している医療倫理学教室が開催している研究会等で定期的に報告を行い、研究の内容や方向性について十分にディスカッションを行う予定である。また、22 年度にロンドン大学 UCL を訪ねると一緒に、オックスフォード大学のウエヒロ応用倫理研究所を訪れ、本研究に関する資料調査と意見交換を行う。同研究所には、生命倫理学の方法論について研究している研究者が所属している。申請者は以前、同研究所を訪れたことがあり、本研究への協力を依頼できる状況にある。

以上の研究の成果は、日本倫理学会、日本イギリス哲学会、日本生命倫理学会等で報告し、当該領域を専門としている研究者からのコメントと助言を仰ぐ。そして、論文にまとめて国内外の学会誌に投稿する。最終的には研究の総括として一冊の本として出版することを予定している。

Reference

- Bayles, M.D. 1980. *Contemporary Utilitarianism*. Peter Smith Pub.
- Brandt, R.B. 1979. *A Theory of the Good and the Right*. Oxford UP.
- Dancy, Jonathan. 1991. 'Intuitionism,' in *A Companion to Ethics* (Singer, P. ed. Blackwell).
- Hare, R.M. 1986. *Moral Thinking*. Oxford UP.
- Hintikka, Jacko. 1999. 'The Emperor's New Intuitions,' *Journal of Philosophy*, 96(3):127-47.
- Jamieson, Dale. 1991. 'Method and Moral Theory,' in *A Companion to Ethics* (Singer, P. ed. Blackwell).
- Parfit, Derek. 1984. *Reasons and Persons*. Oxford UP.
- Prichard, H.A. 1949. *Moral Obligation*. Oxford: Clarendon Press.
- Rawls, John. 2000. *Lectures on the History of Moral Philosophy*. Harvard UP.
- Ross, W.D. 1930. *Right and the Good*. Oxford: Clarendon Press.
- Schneewind, J.B. 1997. *The Invention of Autonomy: A History of Modern Moral Philosophy*. Cambridge UP.
- Sidgwick, Henry. 1998. *Outlines of the History of Ethics*. Hackett Publishing Company.
- Singer, Peter. 1993. *Practical Ethics*. Cambridge UP.
- Smart, J.J.C. and Bernard Williams. 1973. *Utilitarianism: For and Against*. Cambridge UP.

**このページは、若手研究 (A) で応募する研究者のみ記述
 <若手研究 (B) で応募する場合は、空欄のまま提出してください。>**

今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況等

本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。
 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
 研究協力者がいる場合には、必要に応じその者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況
 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

研究活動状況の状況及び本研究計画との関連性

現在、参画している研究の状況 (研究費の種類、研究期間、研究課題、研究内容、役割分担内容) と今回応募している本研究計画との関連性を具体的に記述してください。

これまでに受けた研究費とその成果等

本欄には、研究代表者がこれまでに受けた研究費 (科学研究費補助金、所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受けている研究費も含む。) による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、科学研究費補助金とそれ以外の研究費に分けて、次の点に留意し記述してください。

それぞれの研究費毎に、研究種目名 (科学研究費補助金以外の研究費については資金制度名)、期間 (年度)、研究課題名、研究代表者又は研究分担者の別、研究経費 (直接経費) を記入の上、研究成果及び中間・事後評価 (当該研究費の配分機関が行うものに限る。) 結果を簡潔に記述してください。

科学研究費補助金とそれ以外の研究費は線を引いて区別して記述してください。

研究機関名

東京大学

研究代表者氏名

児玉 聡

研究業績

本欄には、これまでに発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、主要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。

発表論文名・著書名 等

(例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください。)
(以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その員数と、掲載されている順番を 番目と記入)しても可。なお、研究代表者には下線を付してください。)

1. 児玉聡、「近年の米国における死の定義をめぐる論争」、『生命倫理』、査読有、18(1):39-46 (2008年)。
2. Akira Akabayashi, Satoshi Kodama, and Brian Taylor Slingsby, 'Is Asian Bioethics Really the Solution?', *Cambridge Quarterly of Healthcare Ethics*, 査読有, 17:270-272 (2008年)。
3. Misao Fujita, Satoshi Kodama, and Akira Akabayashi, 'Ten Years After the Organ Transplanta Act: The Current Situation in Japan', *The Newsletter of the International Association of Bioethics*, 査読無, 20:5 (2008年)。
4. 児玉聡、「デッド・ドナー・ルールの倫理的検討」、『生命倫理』、査読有、17(1):183-189 (2007年)。
5. 伊吹友秀、児玉聡、「エンハンスメント概念の分析とその含意」、『生命倫理』、査読無、17(1):47-55 (2007年)。
6. 赤林朗編、『入門・医療倫理 II』、勁草書房、2007年(「I 規範倫理学 総論」(9頁から15頁)、「II メタ倫理学 総論」(71頁から79頁)、第5章「反実在論・非認知主義」(97-112頁)を担当)。
7. 藤田みさお、児玉聡、赤林朗、「病気腎移植を実施する前に解決すべき三つの倫理的課題」、『日本医事新報』、査読無、4320:107-111 (2007年)。
8. 児玉聡、前田正一、金川里佳、「厚労省『終末期医療に関するガイドライン(たたき台)』に対する提言」(論壇)、『医療事故・紛争対応研究会誌』、査読有、1:6-8 (2007年)。
9. 児玉聡、「生命倫理学における功利主義と直観主義の争い」、『創文』(第494号)、査読無、創文社、2007年1月、28-31頁。

研究業績 (つづき)

10. Brian Taylor Slingsby, Satoshi Kodama, and Akira Akabayashi, 'Scientific Misconduct in Japan: The Present Paucity of Oversight Policy', *Cambridge Quarterly of Healthcare Ethics*, 査読有, 15:294-297(2006年).
11. 児玉聡、前田正一、赤林朗、「富山県射水市民病院事件について--日本の延命治療の中止のあり方に 関する一提案」、『日本医事新報』、査読無、4281:79-83 (2006年)。
12. 伊勢田哲治・樫則章編、『生命倫理学と功利主義』、ナカニシヤ出版、2006年 (第8章「功利主義と臓器移植」(170頁-192頁)を担当)。
13. 赤林朗編、『入門・医療倫理Ⅰ』、勁草書房、2005年 (第1章「倫理学の基礎」(15頁から27頁)、第15章「脳死と臓器移植」(267-285頁)、第16章「医療資源の配分」(287-302頁)を担当)。
14. 児玉聡、「功利主義の福祉制度論」、『倫理学研究』(第35号)、査読無、晃洋書房、2005年、3-12頁。
15. 児玉聡、「ベンタムの功利主義における security 概念の検討」、『実践哲学研究』(第27号)、査読無、実践哲学研究会、2004年、29-46頁。
16. 安彦一恵/谷本光男編、『公共性の哲学を学ぶ人のために』、世界思想社、2004年 (「何のための政治参加か--十九世紀英国の政治哲学に即して--」(287-301頁)を担当)。
17. 児玉聡、「功利主義による寛容の基礎づけ ベンタムの同性愛寛容論を手がかりにして」、『倫理学年報』(第52集)、査読有、理想社、2003年、135-146頁。
18. 児玉聡、「ベンタムの自然権論批判」、『倫理学研究』(第32集)、査読有、晃洋書房、2002年、76-87頁。
19. 児玉聡、「ベンタムにおける徳と幸福」、『実践哲学研究』(第22号)、査読無、実践哲学研究会、1999年11月、33-52頁。

研究機関名

東京大学

研究代表者氏名

児玉 聡

研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性

- ・本欄には、本応募の研究代表者が、平成20年度に、「特別推進研究」、「基盤研究(S)」又は「学術創成研究費」の研究代表者として、研究進捗評価を受けた場合に記述してください。
- ・本欄には、研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性(どのような関係にあるのか、研究進捗評価を受けた研究を具体的にどのように発展させるのか等)について記述してください。

該当せず。

研究略歴

本欄には、最終学校卒業後の研究履歴を現在から順に年度をさかのぼって記入してください。その際、どのような研究を行ってきたのか、研究内容とともに特筆すべき事項(受賞歴等)を簡潔に記入してください。

- 平成19年4月～現在：東京大学大学院医学系研究科・講師
生命倫理学領域における功利主義の実践的意義を引き続き検討するとともに、生命倫理学の基礎理論としてメタ倫理学の入門書の執筆に参加した。また、生命倫理における功利主義と直観主義の対立に関する準備的研究を行った。
- 平成15年10月～平成19年3月：東京大学大学院医学系研究科・助手
生命倫理学分野における功利主義の意義を、臓器移植・終末期医療・公衆衛生政策を中心に検討した。なお、平成18年1月に学位申請論文「ベンタムの功利主義の理論とその実践的含意の検討」を提出し、学位授与された。
- 平成14年4月～平成15年9月：日本学術振興会特別研究員(PD, 但し平成15年1月からはSPD)
代議制民主政治の基礎理論としての功利主義に関して、思想史的研究を行った。
- 平成14年3月：京都大学大学院文学研究科博士後期課程 研究指導認定退学

人権の保護及び法令等の遵守への対応(公募要領9頁参照)

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、患者から提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、組換えDNA実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

該当せず。

研究経費の妥当性・必要性

本欄には、「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、研究体制等を踏まえ、次頁以降に記入する研究経費の妥当性・必要性・積算根拠について記述してください。また、研究計画のいずれかの年度において、各費目(設備備品費、旅費、謝金等)が全体の研究経費の90%を超える場合及びその他の費目で、特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性(内訳等)を記述してください。

本研究に関しては、国内外の関連文献を体系的に収集する必要がある。そのため、各年度とも、本研究に関連する図書購入費として和書・洋書を合わせて150千円ずつ計上してある。同様に、電子資料のプリントアウト等に各年度30千円(プリンタトナーおよび紙)が必要である。

また、本研究に関しては、その研究領域の広さから、様々な学会や研究会等での報告や意見交換を通じた研究内容の洗練が不可欠である。そのため、各年度とも、国内での成果発表および調査研究(毎年二回程度)のために、100千円ずつ計上してある。さらに、22年度に関しては、海外における調査研究(英国ロンドン大学、オックスフォード大学の生命倫理研究所)のために、400千円の外国旅費を計上している。

さらに、本研究に関しては、文献収集や資料整理に大学院生等の協力を必要とする。そのため、謝金として各年度25千円が必要である。最後に、資料や論文等の複写費、および研究成果投稿にかかる費用として、各年度に30千円を計上してある。

研究機関名

東京大学

研究代表者氏名

児玉 聡

若手(A・B) - 10
(金額単位：千円)

設備備品費の明細			消耗品費の明細	
〔記入に当たっては、若手研究(A・B)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。〕			〔記入に当たっては、若手研究(A・B)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。〕	
年度	品名・仕様 (数量×単価)(設置機関)	金額	品名	金額
21			功利主義関連図書(30×@5)	150
			プリンタトナー	20
			コピー用紙	10
	計	0	計	180
22			生命倫理関連図書(20×@5)	100
			功利主義関連図書(10×@5)	50
			プリンタトナー	20
			コピー用紙	10
	計	0	計	180
23			生命倫理関連図書(10×@5)	50
			功利主義関連図書(20×@5)	100
			プリンタトナー	20
			コピー用紙	10
	計	0	計	180

若手(A・B) - 11

(金額単位：千円)

旅費等の明細 (記入に当たっては、若手研究(A・B)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。)								
年度	国内旅費		外国旅費		謝金等		その他	
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額
2 1	調査研究旅費 (2回×@50)	100			研究補助	25	複写費	20
							研究成果投稿料	10
	計	100	計	0	計	25	計	30
2 2	調査研究旅費 (2回×@50)	100	調査研究旅費 (英国10日間)	400	研究補助	25	複写費	20
							研究成果投稿料	10
	計	100	計	400	計	25	計	30
2 3	調査研究旅費 (2回×@50)	100			研究補助	25	複写費	20
							研究成果投稿料	10
	計	100	計	0	計	25	計	30
研究機関名	東京大学				研究代表者氏名	児玉 聡		

研究費の応募・受入等の状況・エフォート

本欄は、第2段審査(合議審査)において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところであり、研究代表者の応募時点における、(1)応募中の研究費、(2)受入予定の研究費、(3)その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。

「エフォート」欄には、年間の全仕事時間を100%とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。

「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。

科学研究費補助金の「特定領域研究」及び「新学術領域研究」の領域提案型にあつては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。

所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても記入してください。

(1) 応募中の研究費

資金制度・研究費名・研究期間(配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成21年度研究経費(期間全体の額)(千円)	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由
【本応募研究課題】 若手研究(B) (H21~H23)	「功利主義vs直観主義」論争の変遷と現代倫理学における直観の方法論的意義の解明	代表	335 (1,405)	15%	

研究費の応募・受入等の状況・エフォート(つづき)					
(2) 受入予定の研究費					
資金制度・研究費名・研究期間(配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成21年度研究経費(期間全体の額)(千円)	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由
基盤研究(B)(一般)(H20~H22)	生命・環境倫理における「尊厳」・「価値」・「権利」に関する思想史的・規範的研究 (盛永審一郎)	分担	300 (700)	5	申請者は研究分担者として英米圏における生命・環境倫理一般の研究動向の調査を行う予定であるが、本研究申請とは直接関係のない研究である。
(3) その他の活動 〔上記の応募中及び受入予定の研究費による研究活動以外の職務として行う研究活動や教育活動等のエフォートを記入してください。〕				80	
合計 (上記(1)、(2)、(3)のエフォートの合計)				100 (%)	
研究機関名	児玉 聡		研究代表者氏名	東京大学	